

長期滞在型観光

知事訪欧レポート



下

「これが民宿？」
20日、イタリア中部のトスカ
ーナ州ルッカの農家民宿で、県
訪問団から驚きの声が上がっ
た。

この農家は、耕作放棄地だっ
た4畝の畑で1500本以上の
オリーブを無農薬で育ててい
る。こだわり抜いた高品質のオ
リーブ油はここでしか買うこと
ができず、逆にそれが現地に足
を運ぶ動機になっている。

一行が目を見守ったのは、民
宿という言葉のイメージとかけ
離れた高級感だ。1日8人限定
の宿はホテルのようなしつらえ
で、海が見えるプールまである。
値段は1泊3食付きで1人30
0円（約4万2千円）からと、
日本の高級旅館並みだ。それで
も、ドイツやスイスの富裕層が
ひっきりなしに訪れるという。

視察団の一人で、能登町で農
家民宿群「春蘭の里」を運営す
る多田喜一郎事務局長は、大い
に刺激を受けたようだ。「高級
志向の民宿があってもいいんや
なあ。春蘭の里でも一軒くらい、
1晩3万円を取れるような特色

見せる農業、点から面に

を出せないか、考えてみんなん
と思いを巡らせていた。
里山再生のヒント
イタリアでは、農家を本業と
する傍ら、宿泊施設やレストラ
ンを備え、客を迎える農家民宿
が盛んだ。今や同国の宿泊施設
の3分の1を占めるとされる。
日本でも近年、農家民宿が急
増中で、県内では現在、能登や
白山麓を中心に60軒を数える。
農林漁業者が経営する飲食店も
増えてきている。だが、農家民
宿が増える以上に、人口減少が
進み、手入れされない里山や耕
作放棄地は広がる一方だ。

「耕作放棄地の再生は大変や
ったんじゃないの」
「なんでも、そこまでこだわ
って商品を差別化しようと思っ
たの」
ルッカの農家民宿の経営者の
話に、最も熱心に耳を傾け、矢
継ぎ早に質問をしていたのは、
同行の農業関係者でなく、谷本
正憲知事だった。「やっぱり能
登は、第一次産業を磨いていく
しかないからね。能登や白山
麓を再生するヒントがあるかと
思ってたね」。能登愛の強い知事
らしい言葉に聞かされた。

文化を重視する「スローフード
運動」に沿って、一つの地域に
腰を据えて滞在し、その土地の
自然や食、文化をじっくり味わ
うという旅行のあり方である。
石川県はこれまで自然を重視
する「グリーンツーリズム」の
推進を掲げてきたが、谷本知事
はこう強調する。「グリーンツ
ーリズムは自然体験が中心だっ
たが、スローツーリズムは、農
業や食にもっと重点が置かれ
る。スローツーリズムでは、地
域の食文化を大事にしているイ
タリアに学ぶ点が多いんや」。

その成功例が、一行が訪ねた
トスカーナ州のグレイヴェ・イ
ン・キャンティ市だ。同市は「ス
ロウシティ」を掲げ、その土地
固有のものを大事にするまちづ
くりを進めた結果、移住者が増
え、40年前に1万人だった人口
が4千人も増えた。
19日、一行を迎えたバオロ・
ソッターニ市長は「都市の規模
を拡大するのではなく、生活の
質を高めることが重要です。目
に見える自然や食も、見えない
伝統や文化も、その土地にある
ものを大事にしないとけいな
ぎりにつなずいていた。」
「今までの農家民宿は、その
土地でとれたものを食べさせる
のが中心だった。それも大事だ
けど、長期滞在となるともう少
し工夫がいる。泊まるところは
同じ民宿でも、食べる場所は、
きょうはこっちの土地、あした
はあっちの土地、という広域の
エリアが必要かもしらんね」
今回の視察には県内の農家民
宿、農家レストランの経営者6
人が同行した。それまでほとん
ど交流がなく、よそよそしかっ
たメンバーだが、最後には「何
かしなきゃならん。石川に帰っ
たらいつぱいみんな集まろ
う」と盛り上がりつつあった。

民宿なのに1泊4万円



農家民宿で無農薬栽培
培ざれているオリーブ
畑を見て回る一行
＝20日、イタリア
トスカーナ州

で、知事は何
を見たかった
のか。
その一つの
キーワードが
「スローツ
ーリズム」だ。
地域がもとも
と持っている
食材や郷土料
理といった食
文化を大事に
する。スロー
ツーリズムは
自然や食も、
見えない文
化も、その土
地にあるもの
を大事にす
るとけいな
ぎりにつな
ずいていた。

人口減少が進む能登を中心
に、農業や食を観光と結びつけ
る「スローツーリズム」を目指
す挑戦が始まる。これからは、
見せることを意識した観光型の
農業も必要なのかもしれない。
先進地イタリアの視察は、その
布石となったような気がした。
（藤澤瑛子）

長期滞在型観光の「スローツ
ーリズム」を
目指す上で、イ
タリアから何を
学んだのか。谷
本知事はこう
語る。